

わーく&らifu

平成29年2月28日 進路指導部 発行

■CONTENTS■

★連載「キャリア教育基礎講座⑤」金銭管理のススメ～がまだした分を上手につかう～

連載「キャリア教育基礎講座⑤」金銭管理のススメ ～がまだした分を上手につかう～

もう間もなく巣立っていく高等部3年生。夢や希望にあふれた春を迎えていることと思います。しかし同時に、親子共々大きな不安を抱き過ぎてされている方もおられるはずです。

その大きな要因のひとつが「先の見通しがもてない事」だと思います。



■学校生活の「卒業」は人生最大の変化

考えてみれば学校の種類や場所は変わっても、大きく「学校生活」という屋間の生活基盤には慣れており、十分見通しをもって生活できました。

ところが、卒業後の生活では一変します。わかりやすいところでは、出発・帰宅時間が人によってはかなり変わる、自分の周囲の顔ぶれががらりと変わる、土日や祝祭日も休みにならないことなど1週間の見通しが変わる人もいます。

これは今までで最も大きな転換です。その大転換に見通しをもたせ、スムーズに卒業後の生活に移れるようにするための取組が、高等部の現場実習で、現場実習は未来生活のリハーサルと言えます。

ところが、現場実習では体験できなかったこともたくさんあります。

実習は2週間で「終わり」ますが、現実の生活では晴れても降っても終わりなく続きますし、長期休業はありません。

これは本当にあった話ですが、会社へ就職した卒業生が半年ほどたってから「今度の実習はいつ終わるのですか？先生の巡回はいつですか？」と電話をかけてきました。卒業の意味がうまく理解できていなかったということです。

このことから私たちは卒業や就職の意味に加えて、卒業した後の3ヶ月後、1年後、3年後、、、と続く人生に関しても、できる限り長期の見通しをもたせる努力をすることがあります。

その重要な見通しのひとつが「給料・工賃」の発生と、その管理です。働いた分のお金をもらうことは働き続ける意欲に直結する大きな要素でもあります。今まで手にしたことのない金額のお金の使い方（役立て方）に見通しが持てずに失敗し、トラブルにつながる（職を失うことも）原因のひとつでもあります。

進路だよりではこれまで、知的障がいのある人たちは、自ら学ぶことは苦手だが、きちんと教えられて身につけた事は確実にこなすことができることをお話してきました。

ということは、「がまだした分を上手につかう」ことも学習を積み重ねておく必要があるということです。今回はこのことを考えてみましょう。



■期待されることが感じられるように

ご家族がお子さんに期待される行動・役割（してほしいこと）は必ずあります。この家族が子どもに期待する行動と、おこづかいなどの報酬（ごほうび）を結びつけていくアイデアが大切です。

家族が子どもに期待する行動ですから、家事（お手伝い）等だけではなく、広く考えられます。たとえば、「決めた時間に起床できること」「ゲームの時間を守ること」などの、家庭でのきまりを守りすることも含まれます。

なお、家庭でのきまりづくりはできるだけ前向きな目標とすることが良いと思います。（「〇〇しない」ではなく「〇〇する。」の表現がよいですね。）

■きまり・期待を守ることの意義

家庭でのきまり・期待を守るとは、もうひとつ重要な意義があります。「子どもたちは、自分の好きなことなら何時間でも、、、」という声をよく聞きます。ところが、家庭・学校のみならず、先々の社会生活に当たって、周囲から期待される事は、必ずしも本人がやりたいことや好きなことだけとは限りません。

そこで必要なのは我慢する力。自分の好きなことと違うことでも、自分に期待されることは、決められたとおりやらなければならないという役割理解です。このことは、「はたらく大人」に育てるための重要なポイントです。

■おこづかい制度は、子どもの成長にあわせて

さて、おこづかいや報酬（ごほうび）の与え方にも、毎日、毎週、毎月などいろいろなタイミングがあります。また、「〇が10個たまったら」などのルールも取り入れられます。管理する力をつける上で大切なのは、お金の動きが子どもに見えるようにすることです。というのも、いつのまにかお金がなくなって何に使ったかわからないという卒業生の課題をよく聞くからです。

小さいうちからお子さん専用のお財布を用意しておく、自分のお金が増える減るが視覚的に教えられる。その上で、買い物もお子様任せにせず、親が付き添いながら、かしこい消費者の視点でアドバイスするなど、金銭学習以外のことも教えられる。

また、何にいくらつかっているかを把握させることも大切なので、レシートをきちんとお財布に直す習慣もつけておきたいものです。計算ができるようになればお小遣い帳も導入できますね。

このような積み重ねと算数・数学の力の成長が相まって、金銭管理の力がついていきます。

ただし、この力は急には育ちません。「いつからやるの？」の回でもお話ししましたが「今」から成長にあわせて取り組みましょう。



＜編集後記＞

【ほめる】小さいうちから取り組めることとして、おこづかいに限らず、「がまだした（がんばった）ら、認められる（ほめられる）」ことをたくさん用意しておくことも大切です。自分がしたことに対して、周りの大人から認められる（ほめられる）経験を積み重ねていくと、頑張ることの気持ちよさがわかり、いずれ、人からほめられなくとも適切な行動がとれる力（自己評価できる力）がつくようになります。お子さんにわかる方法で、ちゃんとほめてあげましょう！（谷口）

